



語り継ぐ

- 東日本大震災からの学び -

教育長 津野庄一郎

12月13日、防災教育のために、東日本大震災（2011年3月11日）の石巻市震災遺構として残る大川小学校と門脇小学校を3人（教育長：津野、村教研会長：櫻井中学校長、学校教育課：野沢班長）で視察しました。

門脇小学校は、地震・津波・火災に遭った唯一の学校です。その当時、校舎内・校庭にいた児童224名は、校長のリーダーシップと教職員のチームワークで全員無事でした。その背景には真剣な避難訓練（引き渡し訓練含む）と児童の素早い避難行動がありました。子どもたちの行動に保護者や地域住民が後に続いたことから「避難の連鎖」とも呼ばれ、それが生死を分けたと言われています。（NHKスペシャル「津波避難」2021.3.6放映）



一方大川小学校は、地震発生後にグラウンドへ2次避難したものの、50分余り校地に留まったため、74名の児童と10名の教師の命が河川津波で亡くなりました。なぜ、裏山に直ぐに逃げなかったのか。被害児童の父親で語り部

でもあるガイドのお話に胸が痛みました。「百聞は一見に如かず」、あらためて自分の目で確かめ、五感を通して学ぶことの大切さを実感しました。

地震発生当時、元石巻市立門脇小学校の鈴木洋子校長先生は、防災教育のポイントを以下のように述べています。

- ・土地（歴史や地理）をよく知ること
- ・語り継ぐこと
- ・日常の生活指導を徹底すること
- ・自分で考え判断し、行動する力を養うこと



鈴木校長先生は、現役最後となる終業式で子どもたちに「とうかしゅんぷうにえむ 桃花春風笑：辛いこと、苦しいことは、生きているうで押し寄せてくるだろうけれど、一生懸命に生きていれば、必ず春は来る」と伝えたとのこと。

命を守るために何ができるのか。皆さんと一緒に考えたいと思います。

<【写真】上：門脇小学校、中：大川小学校、下：語り部の元門脇小学校の鈴木校長＝12月13日>